

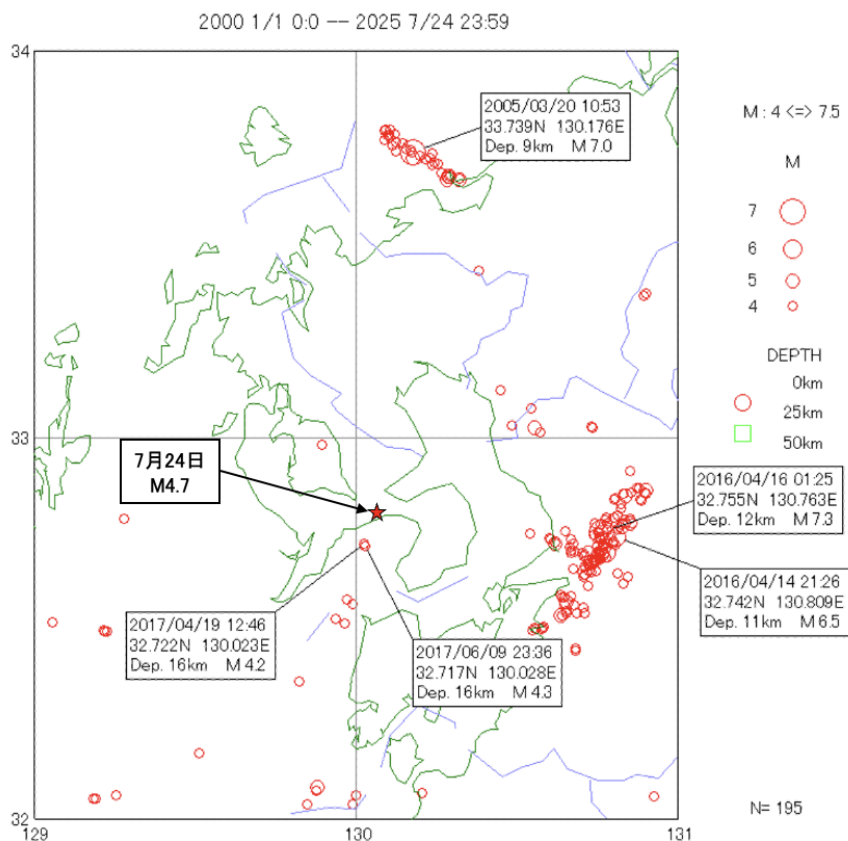
長崎県で7年ぶり震度4の地震が発生

7月25日午前、長崎県南西部を震源とする地震が発生し、長崎県では諫早市と雲仙市で最大震度 4 を観測しました。長崎県で震度4を観測するのは、2017年以来7年ぶりの事でした。



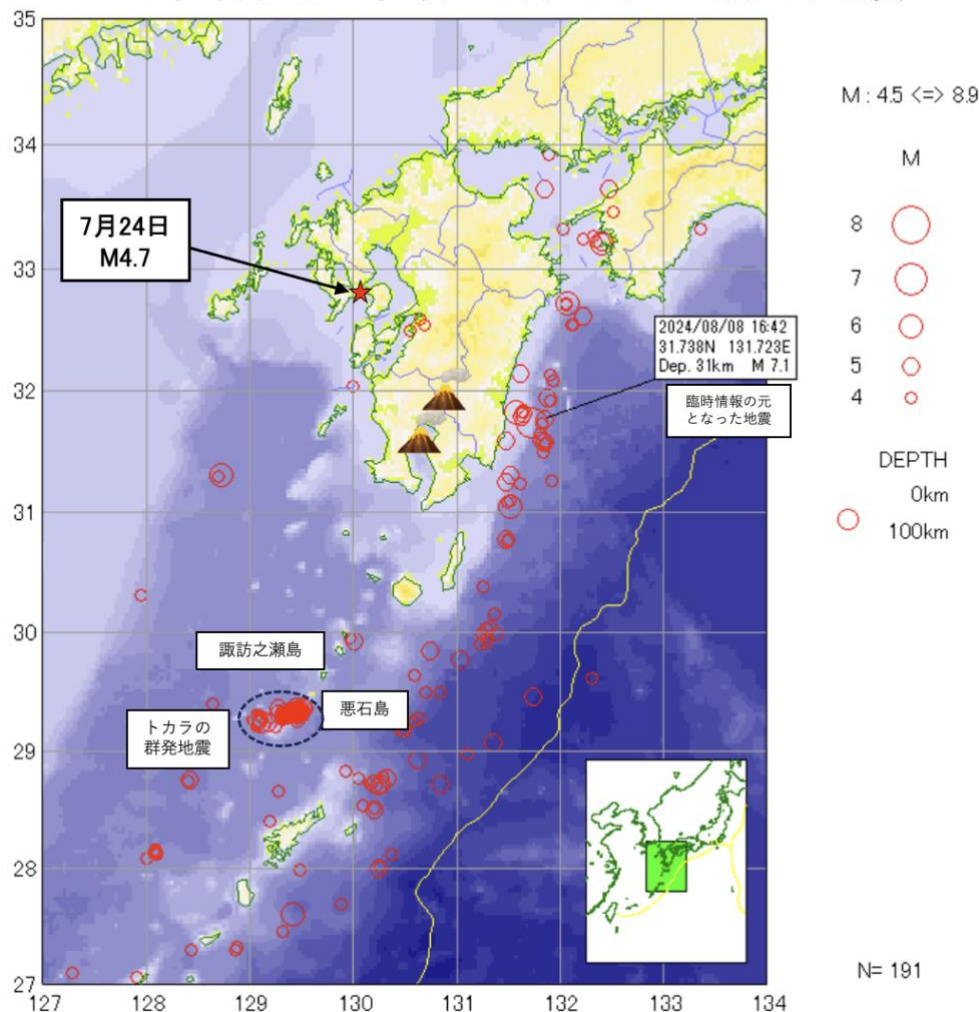
このところ、トカラ列島での激しい群発地震活動が大きなニュースとなっていました。それ以外にも新燃岳の噴火や、桜島の噴火、諏訪之瀬島の噴火など、九州での地震・火山活動が活発化しているように思われます。幸いトカラ列島での群発地震活動は収束に向かっているようです。

すべてこれらの活動はフィリピン海プレートの北西に沿った地域で発生しています。実際、昨年8月には 2019 年に運用が開始されてから初めて南海トラフ臨時情報が発表されました。トカラの群発地震が南海トラフの巨大地震を誘発する事は理論的にも考えにくく、フィリピン海プレート北西部分での活動活発化が臨時情報発令の元となった地震の発生や、トカラ列島の群発地震を引き起こしていると考えられるほうが自然かと思います。





2020年1月から25年7月24日までのM4.5以上の地震



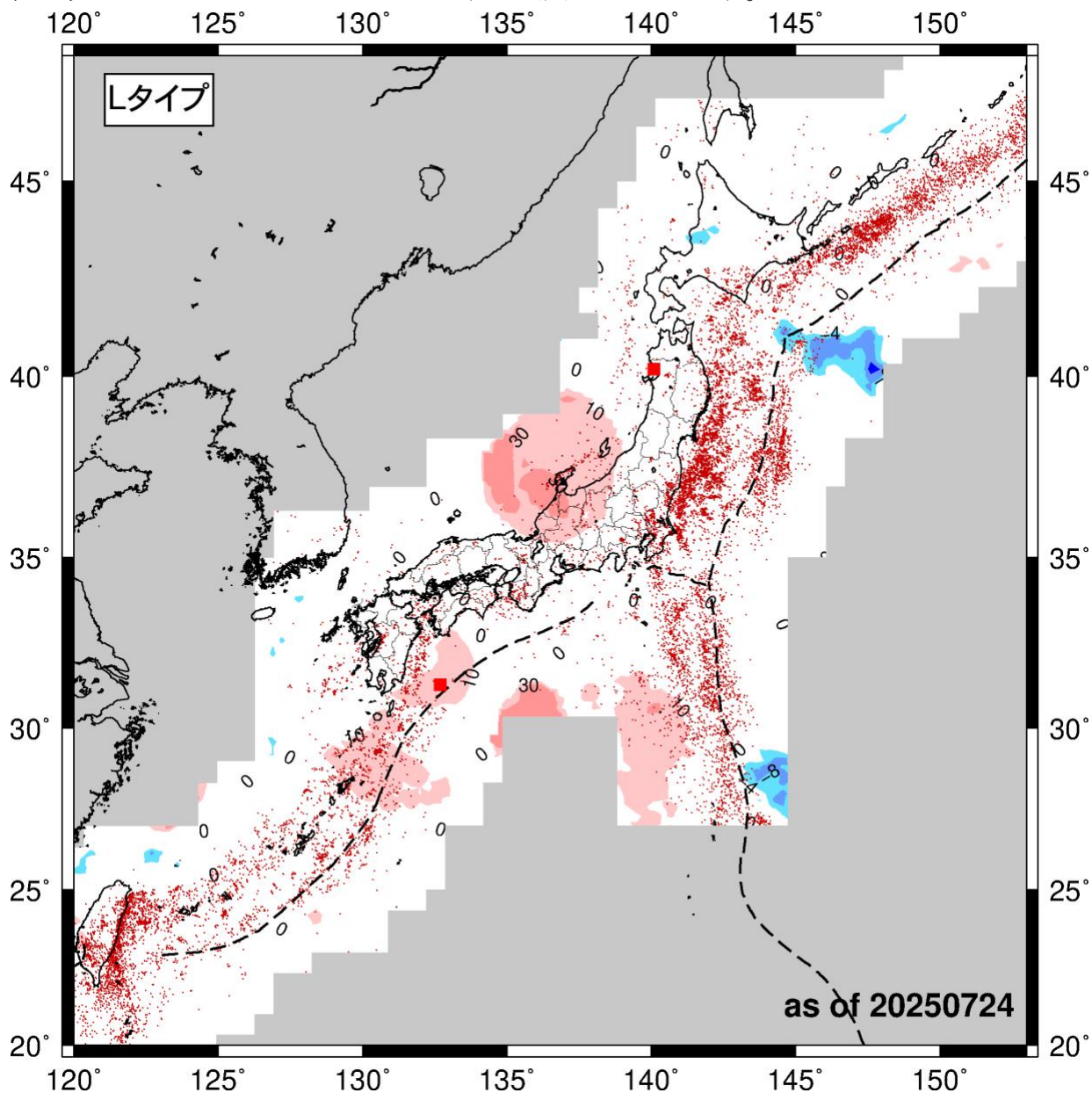
上の図はこのところの火山活動(新燃岳、桜島)やトカラ列島群発地震の位置関係を示したものです。さらに7月24日に発生したマグニチュード4.7(速報値)の地震を★で示しました。

同時に昨年8月の南海トラフ地震臨時情報発令の根拠となった日向灘の地震(M=7.1)も図示しました。



日本およびその周辺の広域地下天気図®

6月16日のニュースレターに続き、現在の気象庁の観測網で解析できる最大範囲の領域の解析です。今週号では7月24日時点のLタイプ地下天気図をお示しします。



前回の解析で、「日向灘から沖縄に至る領域では、奄美大島近傍での地震活動活発化もかなり目立つ異常だと考えています」と述べさせてもらいましたが、トカラ列島の群発地震活動が対応する活動であった可能性が高いと考えています。

また、7月14日のニュースレターでお示した青森県沖・北海道南東沖の日本海溝の地震活動静穏化は今日の地下天気図でも確認する事ができます。

台湾南方海域での静穏化は解消状態が続いており、今後の地震発生も予想されます。